

被災者切り捨てる安倍を許すな

軍事費と天皇儀式には巨額の金

11・3 集会・デモで反撃を

安倍首相は 10 月 16 日の参院予算員会で「台風 19 号被害のプッシュ型支援として 7 億 1 千万円の支出を決定」と答弁しました。「プッシュ型支援」とは、被災自治体が要望する前に国が救援物資や人員を送ること。安倍のパフォーマンスにすぎません。その証拠に、自民党の二階幹事長は 13 日、被害が「まずまずに収まった」と暴言を吐いていました。これに対し「桁が二つ三つ違うんじゃないの?」「欠陥機 F 35 やオスプレイに 1 兆数千億円で、被災者にはこれかよ!」と怒りが広がっています。

10 月 22 日の天皇即位儀式には 17 億 6 千万円 (儀式全体で 1 6 6 億 4 千万円) も使われます。安倍と天皇一族は被災者の苦難など一顧だにしません。11・3 労働者集会で積もり積もった怒りの声を上げましょう。

動労千葉、全国金属機械労組 港合同とともに 20 年間、11 月労働者集会を全国に呼びかけ共に闘ってきた全日本建設運輸連帯労組関西地区生コン (関生) 支部が史上空前の大弾圧を受けています。かけがえのない仲間、関生支部への弾圧を打ち砕くために、また星野文昭さんを獄死させた国家権力への大反撃の日とするために、さらに韓国・民主労総との連帯をはじめ労働者の国際連帯で改憲・戦争を阻止するために、11・3 集会とデモに参加しましょう。

台風 19 号により、福島県の 27 人をはじめ 12 都県の 75 人が命を奪われ、13 人が行方不明になり、家屋被害は約 2 万 2 千棟 (うち床上浸水 1 万 2 9 8 棟) になっています。(16 日現在)

ちすい ちほうき す ひせいきしよくか
治水・地方切り捨て非正規職化

くにかんり かせん とどう ふけんかんり かせん ていぼう けつかい えつすい どせきりゆう
国管理の 24 河川、都道府県管理の 207 河川の堤防で決壊や越水。土石流や
がけくず とけん しょ
崖崩れも 19 都県 170カ所にのぼりました。

ちゆうおうどう こうそくどうろ ほくりくしんかんせん ざいらいせん すいぐんせん ちゆうおうせん りようもうせん
中央道などの高速道路や北陸新幹線、JR 在来線（水郡線・中央線・両毛線
あずません こうみせん いいやません とうほくほんせん はちのへせん ばんえつとうせん だいさん
・吾妻線・小海線・飯山線・東北本線・八戸線・磐越東線）、第三セクターや
してつかくせん ぜんめん いちぶ ふつう すいどう そうでんもう すんだん こうそう
私鉄各線が全面・一部不通。水道や送電網の寸断で、高層マンションのエレベ
ーターやトイレも使えず、福島や宮城、茨城、長野、東京、神奈川など約 10 万戸
だんすい つづ
で断水が続いています。

ふくしま ちほう たいふう ひが い しゅうちゆう ひが い かくだい ちようき か
またしても福島など地方に台風被害が集中しています。被害の拡大・長期化
しほん えんめい ちほうき す かいけん む ぐんじゆうせんせいさく
は、資本の延命のための地方切り捨てと改憲に向けた軍事優先政策によるもので
ちよう せんおくえん こ しじょうさいこうがく だいぐんかくよさん さいゆうせん ちほう むじゆん
す。5 兆 2 千億円を超える史上最高額の大軍拡予算が最優先され、地方に矛盾
しゅうちゆう けつか こんかい だいさいがい
が集中させられた結果、今回の大災害となったのです。

せんごちよくご ねん ししや ゆくえ ふめいしや にん だ
戦後直後（1947年）に死者・行方不明者 1930 人を出したカスリーン
たいふう そうかつ けんせつしやう げん こくど こうつうしやう あらかわ ちすい しりやう ぐんじざい
台風を総括した建設省（現・国土交通省）の「荒川治水資料」は「軍事材と
さんりん らんぱつ おこな さんがい なまなま ていぼう いじ ふび
して山林の乱伐を行ったためにその惨害は生々しく、堤防は維持の不備」とし
ています。①乱伐で山野が保水力を失い②治水予算が戦争遂行費に回されたと
らんぱつ さんや ほすいりよく うしな ちすいよさん せんそうすいこうひ まわ
ころを台風が襲ったのです。

こんかい もくざいじゆうか りんぎようすいたい しとうたかお のうちごうだつこうげき
今回はどうなのか。木材自由化と林業衰退、市東孝雄さんへの農地強奪攻撃
しめ のうぎようはかい こくど ほすいりよく おお うば ちすいよさん
に示される農業破壊で、国土の保水力が大きく奪われています。治水予算も
じゅうすうねんまえ ちよう せんおくえん いじよう いま やく せんおくえん
十数年前には 2 兆 2 千億円以上だったのが、今や約 9 千億円です。

じちたいしよくいん ひせいきしよくか さいがいたいおう しょうぼう しよくいん しゃ
自治体職員のリストラ・非正規職化とともに、災害対応の消防（職員・車

両) 予算も削減されています。1991年に936あった消防本部が「広域化」で現在723に減っています。消防車の購入予算も削られK消防署のポンプ車18台の平均車齢は13年以上です。

さらに安倍政権は昨年2月、「もっと削れ」と、広域化推進を2024年まで延長しました。

また政府は、河川管理を担う国土交通省の地方整備局職員定数をこの十数年で2割近く減らしました。地方によっては3割から半分近くが非正規職員に置き換えられています。このことが台風被害を拡大したことは明らかです。

これを全面化しようとしているのが自治体における会計年度任用職員制度の攻撃です。政府はこれを来年4月から全国一斉に導入しようとしています。この制度の問題点は①毎年全員解雇②試験・評価制度による選別採用③毎年試用期間1カ月です。これは学校も同じで、すでに公立小学校の担任にも非正規職員が広がっています。

動労千葉先頭に職場で反撃開始

全面的な非正規職化攻撃に対して、動労千葉は千葉鉄道サービス（CTS）職場での闘いを通して組織拡大を前進させています。「非正規だけの社会にするな」という闘いは、JRや郵政、自治体、学校職場から始まっています。広島教職員100人声明が全国の教育労働者の決起を促しています。自治体労働者の闘いで会計年度任用職員制度の来年4月一斉導入は不可能になっています。

郡山市中央工業団地や長野のキノコ生産工場、1日の生産台数2500台

のスバル^{ぐん ま こうじょう と}群馬工場も止まりました。コンビニ各店舗^{かくてん ぼ}や関連工場^{かんれんこうじょう}と配送^{はいそう}の労働者^{ろうどうしや}のリストラ^{かくち かた}が各地で語られ、そこで働く労働者^{はたら ろうどうしや}と家族^{かぞく}の不安^{ふあん}が高まっています。しかし、台風^{たいふう}の下^{もと}、コンビニ関連^{かんれん}ユニオンなどの怒り^{いか}で数千店規模^{すうせんてん き ぼ}の閉店^{へいてん}が実現^{じつげん}しました。

私たちの身の周り^{わたし み まわ}で、消費税増税^{しょうひ ぜいぞうぜい}への怒り^{いか}、韓国・北朝鮮^{かんこく きたちようせん}バッシングへの怒り^{いか}、戦争^{せんそう}・改憲攻撃^{かいけんこうげき}への怒り^{いか}、そして何よりも職場^なでの賃金^{しよく ぼ}・労働時間^{ちんぎん ろうどう じ かん}などへの怒り^{いか}が渦巻^{うずま}いています。

バラバラにされて希望^{きぼう}を見えなくされている現状^{げんじよう}への反撃^{はんげき}はただ一つ、目に見^{ひと め み}える団結^{だんけつ}です。職場^{しよく ぼ}で 11 月労働者集会^{がつろうどうしやしゆうかい}を呼びかけること自身が時間^{じ しん}と空間^{じ かん}、信頼^{しんらい}と団結^{だんけつ}を取り戻^とす道^{みち}です。あと 2 週間^{しゆうかん}、職場^{しよく ぼ}・学園^{がくえん}・地域^{ちいき}の労働者^{ろうどうしや}・学生^{がくせい}・民衆^{みんしゆう}に思い切^{おも き}って 11・3 集会^{しゆうかい}への参加^{さんか}を訴^{うった}えよう。